

## 生産と技術と科学

シャープ株式会社中央研究所 三 戸 左 内

20数年前迄の、戦前、戦中、戦後を産業科学研究所に勤め、今は企業で働く身である。今私のもとに研究所があり生産技術推進部があり、商品開発研究所等がある。往時抱いていた「技術」とその研究開発に関するセマンティックスの基本は今でも変わりはないが、企業の世界で通用しているこの言葉の意味には戸惑うようなことが幾度かあった。

産業科学研究所が設立されたのは大阪帝国大学設立の後の事であるが、実は産業科学研究所のような、産業に対し確乎たる科学、技術の基礎を開発してくれる機関が関西地域に必要であるとの考えが先行し、これを設けるには人材供給源として有力な理・工系・大学が必要であるとの考えから、先づ大学が出来上り、その後数年、産研が設立されたのである。

所が、研究所の名称に産業科学と言うものが

用いられた。産業技術研究所とか、生産技術研究所ではなかった。この辺の事が、その後の研究所の関西における産業界に対して創設の期待に応えたか否かについて関係があるのかどうかはわからない。

如何様に関係をもっているにせよ、技術が産業とか生産に関係している限りにおいては、経済と社会に無関係であることはあり得ない。

この事は価値の問題と切っても切れない関係にある。そこには評価、選択、決定、行動の諸問題が技法、手法として究明されなければならない。

こうした事柄に関する問題の所在 (Know What) を掘出す追求の範囲が産業科学であり、その技法、手法の追及確立 (Know How) が、技術研究であろう。